

緩和医療学

【目的】

緩和ケアとは、生命を脅かす疾患による問題に直面した患者とその家族に対して、クオリティオブライフを改善するアプローチである。がんをはじめ、末期心不全など生命を脅かす疾患において緩和ケアの役割は重要である。患者やその家族に対し外来、入院、在宅と切れ目のない緩和ケアを提供するために、緩和ケアチーム、緩和ケア外来、緩和ケア病棟、在宅緩和ケアなどの体制を整備することが求められている。

広島大学病院には、緩和ケアチーム、緩和ケア外来があり、通院・入院中の患者、家族の身体的・精神的サポート、患者・家族・医療者を含めたコミュニケーションのサポートなどを担っている。加えて、広島大学病院のようながん診療連携拠点病院の緩和ケアチームには、がん診療連携拠点病院や一般病院の緩和ケアチーム、緩和ケア病棟、在宅緩和ケアをつなぐ役割も求められている。

緩和医療学の臨床実習Ⅱでは、これまでの「がん治療学」の臨床実習Ⅰでは行わなかった患者の診察への同行や、主治医や病棟看護師とのディスカッションやカンファレンス、他のがん診療拠点病院との多地点症例検討会をプログラムとして盛り込んでいる。系統講義やポリクリで学んだ基礎知識を踏まえて、臨床実習によっておもにがん治療における緩和ケアについて理解し、緩和ケアにおける症状評価と症状緩和の実際、患者や家族への接し方を学ぶことを目的とする。2 週間の実習は広島大学病院で行い、希望があればそのうち半日を、当院と連携している診療所の訪問診療の実習にあてる。大学病院での実習にあたっては、主に緩和ケアチームに同行し、患者の診察を見学するという形式で行う。

興味と機会があれば、がん以外の緩和ケアについても学ぶことが可能である。各人が実習で知りたいこと、勉強したいことなど希望があれば相談に応じる。ただし、当院には緩和ケア病棟が併設されていないため、緩和ケア病棟での実習は行っていない。緩和ケア病棟の実習については JR 広島病院のシラバス参照のこととする。

【実習の実際と到達目標】

- 1) 全人的アプローチについて学ぶ。
- 2) 身体的苦痛の緩和方法について学ぶ。
- 3) ガイドラインに基づいたがん性疼痛の緩和について学ぶ。
- 4) 患者や家族の心理社会的苦痛について学ぶ。
- 5) 多職種での連携の重要性とチーム医療について学ぶ。

週間スケジュール（広島大学病院）

	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜
9：00～ 11：30	病棟診療	病棟診療	カンファレンス	外来・病棟診療	外来・病棟診療
13：00 ～17：00	病棟診療	病棟診療	病棟診療	病棟診療	病棟診療
17：00 ～	1日のまとめ	1日のまとめ	1日のまとめ	1日のまとめ	1週間のまとめ
18：00 ～			オンコロジーミ ーティング		
18：30 ～19：30				多地点症例検討 会	

評価

学生の評価は以下のように行う。

評 価 項 目	配点
指導医による学生の行動内容の評価	40
ワークショップ形式の学生実習	20
指導医による口頭試問	20
実習に関するレポート（院外実習での評価）	20

諸注意など

受講することが決まった場合、早々に個別の研修のプログラムを確定する必要があるため、必ず早めに連絡をすること。

診療所での実習には、学生に見学許可申請のための簡単な書類を作成する必要がある。

実習の初日は、入院棟 5 階緩和ケアチーム室に 8 時 50 分に来室する。最初に 2 週間の実習についてオリエンテーションを行う。

実習に際しては臨床に携わる医療者として適切な身なりを整えること。実習終了時にレポート課題の提出を求める。

担当教員

倉田 明子	(助教)
林 優美	(助教)
濱田 宏	(准教授)
大下 恭子	(助教)
中村 隆治	(助教)

連絡先：倉田明子 メールアドレス：akkurata@hiroshima-u.ac.jp